

「若者とともに進める信州創生 ～若者タウンミーティング～」会議録

テーマ 「今日からあなたに何ができるか？」

日 時 平成28年1月8日（金） 午後6時から8時15分まで

場 所 HanaLab.Unno（ハナラボ ウンノ）（上田市中央）

目 次

1 開会	・ ・ ・ ・ ・	P 2
2 意見交換	・ ・ ・ ・ ・	P 2
3 知事総括	・ ・ ・ ・ ・	P 16
4 閉会	・ ・ ・ ・ ・	P 21

進行役 吉澤茉帆氏（一般社団法人ループサンパチ コーディネーター）

参加者 県民50名

阿部守一（長野県知事）

この県政タウンミーティングは、6つのテーマ別にグループを分けて意見交換を実施しました。

各テーブルの意見交換の内容は省略してあります。

1 開 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

皆様、お待たせいたしました。ただいまから「県政タウンミーティング」を開催いたします。意見交換までの進行を務めます、私、長野県広報県民課長の藤森茂晴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、「地方創生」のトップランナーを目指す本県では、若者の皆さんと5回にわたるタウンミーティングを含め、これまでに多くの県民の皆さんや団体などからご意見をお聞きした上で、昨年10月「長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略」を策定いたしました。これを踏まえ、本日の県政タウンミーティングでは、意欲のある参加者同士が交流して、これから自分にできることや、こんなことを始めた、取り組んで感じた悩みなどの思いを共有して、次の一步を踏み出すきっかけづくりの場にしていきたいと考えております。

本日、この会場におきましてはもともと8月4日の開催を予定しておりましたが、当方の急な都合により直前で延期となってしまいまして、今回、改めて開催させていただくことになりました。

それでは、午後8時までの予定でこれから意見交換に入ってまいります。

なお、全体での意見交換の内容につきましては、お名前などの個人情報を除きまして、後日、県のホームページで公開させていただきますのでご承知おきください。

本日のタウンミーティングはこの会場、ハナラボウンノを運営されております、一般社団法人ループサンパチの吉澤茉帆さんに進行役をお願いしております。吉澤さんのプロフィールは、お手元の次第に紹介させていただいておりますので、ごらんいただきたいと思います。吉澤さんは県内のご出身で、広島大学で大学院まで9年間教育学を専攻された後、山口県立大学に在職され、インターンシップのコーディネーターに従事されました。その後、若手人材を活用した地域産業の活性化の重要性を感じ、長野県に戻られました。現在は同じ市内の「HanaLab Tokida」で働き方セミナー等を行うとともに、インターンシップのコーディネーターとして経営者と学生のやりたいことへの挑戦を支援する等、各種ファシリテーターとしてご活躍されております。皆さんもご存知のことかと思えます。

それでは、吉澤さん、この後の進行をお願いいたします。

2 意見交換

【吉澤茉帆氏】

吉澤です。よろしくお願いいたします。

今日は県政タウンミーティング「若者タウンミーティング」ということでご依頼をいただきまして、開催させていただくことになりましたが、実はフェイスブック等では勝手に「シビックプライド妄想ミーティング」という名前で告知をしておりました。では、スライドを再生します。

先ほどお話しいたきましたように、8月に知事にお越しいただいて開催する予定だったときに第1回を開催しました。知事の都合がつかなくなったので中止というお話だったんですけども、せっかく集まってくださる方もいますので、もう勝手にやっしまえということでやったのが第1回です。でも、おかげさまで、何かの機会には妄想ミーティングをやろうということで2回3回と実施して、今日が4回になりました。県の方々にはとてもいいきっかけをいただいたと思っています。

では、シビックプライドとは何かという話ですけれども、町への誇りとか愛着、自分がこの町に住んでいるということに対して誇りを持つことがシビックプライドの意味するところなんです。私は上田の出身ではないですけども、こちらに住んで2年になります。印象として、上田というのはチャレンジしている人がすごく多い町だな、そしてその人たちがつながっているなということを感じる人が多いです。今日は「今日からあなたに何ができるか?」ということで、住みたい町、おもしろい町、シビックプライドが持てるような町をつくるためにできることは何だろうかというのを考えたいと思います。さあ皆さん、何ができますか。そう言われても、うーんという感じかもしれませんが、今日、何しに来たんですか?妄想しに来たんですよね。まずは妄想をするというのはすごくいいなと思っていて、よくグループワークなどでも「責めないようにしましょう」とか「ただの愚痴は言いません」とかルールがあるんですけども、妄想という言葉を使うことによって必然的にそういうことがなくなるんですね。妄想だから「そんなのできないよ」というのだって、何を言ってもいいわけです。なので、3回を通して、この妄想という言葉はすごく便利だなと感じています。皆さんも、まずは妄想することから一緒にやってもらえればなというのが今日です。

では、これまでの妄想ミーティング、3回でどうだったかということですけども、これが8月の第1回の様子です。40名ほどの方にお越しいただいて、このときも5名の方のテーマに沿って話をしていきました。ここから生まれたことが幾つかあります。このテーマリーダーになってくれているのは防災ガールです。防災ガールというのは全国組織なんですけれども、大学生で、県内に一人しかいません。そんな彼女が「新しい世代の避難訓練をしたい」と妄想を話した結果、実際に防災のキャンプをやればいいじゃないかという話が出て、9月に1泊2日で実施されました。今日も来ています。防災キャンプのこととか妄想ミーティングについてなど一言、どうぞ。

【参加者A】

普段のこういうセッションや話し合いではちょっと堅くなってしまいますけれども、妄想ミーティングだと、終わった後すごいワクワクしてやる気になってしまい、やる気になった結果、実行することになったというものでしたので、今日もワクワクできるんじゃないかなと思っています。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。本人がやる気になったというのもあるんですけども、何よりも周りの大人が彼女と一緒にやりたくなっちゃったというのが、この実現には大きかったかな

と思います。最後まで手伝ってくれた他の会社の女性の方もいらっしゃいましたし、お城の庭に泊まりたいと市と一緒に言いに行ったときも、市の方は、そんなに頑張っているんだったら何とかしてあげたいとなつたのが彼女の魅力だったので、そういうところもあって実現に至りました。ほかにも、NPO法人で障がいを持った方を支援されている方が、妖怪ファッションショーをやりたいと言い出して、かなりの衝撃だったんですけど、結果的にみんなだ妖怪になって出来ちゃったということが、妄想ミーティングをきっかけに生まれました。8月の回には高校の美術班の方も来てくれていて、一緒にやりたいと言い出したんです。それで、一緒にやりましょうということで、このハナラボでのワークショップをしていただいたり、この近くにあるブックカフェで妖怪ファッションショーや洋服づくりのワークショップも開催されました。

その後もこういう形で、第2回はハナラボの3店舗目を会場に、東京からいらっしゃった方々も交えて開催しました。それから、東京の方々が来るタイミングが2カ月に一回ありましたので、そのときにブックカフェで本のまちづくりについての妄想ミーティングをやろうとなり、3回までやりました。そして今日が4回目で、チャレンジしている人たちと一緒に妄想をしていきたいと思っています。

勝手に「シビックプライド妄想ミーティング」と名前を変えてやってきた3回なんですけれども、今日のタウンミーティングもこういった形でやろうと思っていますが、知事、よろしいでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、こんばんは。県政タウンミーティングということですが、吉澤さんに企画を全部丸投げして、県政丸投げミーティングということですのでよろしくお願いします。

妄想ミーティング、いいですね。ぜひ皆さんと私の思いを共有してほしいのは、私は知事として仕事をしていて毎日何を考えているかということ、社会を変えていきたいなと思っています。行政というのは、前例踏襲で去年と同じことを起案して仕事をしていけば何とかなってしまう社会だと思われがちですが、全くそんなことではないです。世の中がどんどん変化している中で、変化に合わせて、いわゆる行政、あるいは福祉、あるいは産業振興とか教育とか、そういうものをどんどん変えていかなければいけないと思うんですけれども、変えていくときに、行政だけでできることというのはやっぱり限界があって、行政だけではできません。

県がつくっている地方創生は「信州創生」と書いてありますよね。信州創生って一体何かよくわからないと思います。別にわからなくてもかまわないと思うんですけれども、とにかく、長野県をもっと元気にしないといけないと。長野県にいて暮らして、あるいは遊びに来てワクワク楽しくいられる場所にしなければいけないと思っています。それをするためには、さっき吉澤さん言ってもらったように、もっとみんなで自由にアイデアを出し合って、こんな町だったら暮らしたいね、こんな場所だったら遊びに行きたいですよねというのをどんどん発想を出して、それを発案した人が言ってもいいし、発案した人以外の人たちが寄ってたかって実現してもいいし、あるいは、私たち行政がやらなければいけないこ

とも多分あると思うし、そういう動きをどんどんつくっていかなければいけないだろうと思っています。私、いろいろなところでいつも言っていますが、「信州創生」なんて行政だけではできません。オール信州でやっていきましょうという話をずっとしてきていますので、今日は若い皆さんと一緒に、吉澤さんからせつかくシビックプライドという問題提起とか妄想ミーティングなんていう話をさせていただいたので、どうすればぶれないか、どうすれば長野県がもっとワクワク楽しく人が集まって賑やかに、そして充実した日々を送れるところになるのかというのをぜひ一緒に考えてもらいたいなと思っていますが、どうですか。

【吉澤茉帆氏】

そのとおりだと思います。

【長野県知事 阿部守一】

とにかく何か変えましょう、一緒に。私だけでもできない。県知事は予算も持っているし部下もいっぱいいるし、何でもできそうだなと皆さんは妄想しているかもしれないですけども、全くそんなことはないです。今、子供たちをサポートするために、子どもの貧困対策について、私の頭の中で3分の1ぐらいを占めています。子供の貧困対策を考えると、どうしても予算をつけてどうにかするというのが、私がやらなければいけないところだと思いますけれども、だけど、子供たちを本当に温かく支える社会にするには、幾ら予算をばらまいたって絶対実現しないです。子供たちに寄り添って身近な場所でサポートしてくれる人たちがいなければ、いくら行政が予算をつけたって全く無意味です。ですから、そういう意味では、私だけで社会は変えられないです。逆に今日集まっている皆さんが一人一人で行おうとしても、多分、難しい問題がいっぱいあるんじゃないかと思います。そのときに、みんなで力を出し合って、あるいは私は県知事として皆さんに選んでいただいているので、私を使ってもらったほうがいいと思うんですね、利用する。知事を利用するというと何か不正をはたらくみたいなニュアンスがあってよくないかもしれないですけども、知事とか市長とか行政は皆さんのために存在しているので、もっとこういうことをやりたいんだけど何とかなるだろうか、もっとこういうことを行政も一緒に動いてというものをどんどん出してもらって、そのかわり、言いつばなしじゃだめですよ。人に頼むだけ、行政に任せるだけでは絶対ろくなものにならないですから。行政と一緒にやろうという積極的な提案をどんどん出してもらえるとうれしいなと思います。

【吉澤茉帆氏】

4回の妄想ミーティングに全部出ていますという方はいらっしゃいますか。いない。では、3回は出ていますという方は。お二人、ありがとうございます。2回目ですという方はちらほらいらっしゃって、初参加の方がほとんどですね。初めての人も楽しめるようにやりますので、大丈夫です。今日は6人のテーマリーダーからお話しいただくんですけども、どの方も使えるものは使ってやろうという意識を持った方です。そういう方をバシッと人選しておりますので、ぜひ、いろいろなお話をさせていただければと思います。

今日は、リーダーの方々にプレゼンしていただいた後、妄想したいテーマ6つに分かれていただきます。グループディスカッションを約45分とりまして、ひたすら妄想します。45分間同じ妄想でもいいですし、15分ごとに移動タイムをアナウンスしますので、このテーマが気になるという方はどんどん移っていただいてもかまいません。それぞれの机に模造紙とポストイットとマジックがあります。ただひらすら話してしまうと何も残りませんので、できるだけ後に来た人たちが重ねて妄想を膨らませられるように、たくさんキーワードなどをメモしていただければと思います。

それから、シビックプライド妄想ミーティングの恒例のものがありまして、そちらについて、勝手につくったシビックプライドセンター上田のセンター長からご紹介をいただいたいと思います。初めに参加される方が多いので、ぜひご教授いただければと思います。

【参加者B】

今、ご紹介いただきましたシビックプライドセンター上田のセンター長です。「ウエーダイナマイト！」という合言葉があるんですけども、登壇者が自ら発表をする前に、最初に左足をこういう感じに「ウエーダイナマイト！」ってやりますので、それをみんなも知事も一緒に言ってからプレゼンが始まります。では一度練習しましょう。知事がちゃんとやってくれるかどうかちゃんと見ていますよ。「ウエーダイナマイト！」では、本番はもうちょっと大きな声でやりましょう。よろしくお願いします。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。なんじゃこりゃという感じかもしれないんですけど、最近、スキップするとうつ病が治るという話もあるとおりに、手を上げると元気が出ますし、ウエーダイナマイトと言うことによって上田をもっと好きになるという効果がありますので、皆さんぜひやってみてくださいね。

では、早速テーマリーダーの方のプレゼンに移ります。お一人目からお願いします。

【参加者C】

よろしくお願いします。合言葉から。「ウエーダイナマイト」ありがとうございます。トップバッターを務めさせていただきます。

私は見てのとおり、仕事は織元として上田紬を製造販売をしております。普段はこういう上田紬のつくり手なんですけれども、年に何度か展示会でお客様とお話する機会があるんです。そんなときにお客様からよく聞くお話が、着物は着たいんだけど着る機会がないとか着る場所がないということ。確かに着る場所とか機会がないんですよね。男性の趣味のゴルフに例えるとわかりやすいと思うんですけども、ゴルフクラブはたくさん販売されてるし打ちっぱなしに行くときもある。でも肝心のゴルフ場がない。それが今の呉服業界、着物業界の問題点です。だから、着物だけたくさん買わせて後は自分で好きにしてください、場所を探してくださいでは、あまりにも無責任ですよ。こうした着物業界の問題点もずっと悶々と抱えて、何とかしなくちゃいけないと思ひまして、5年ほど前から上田で有志2~3人で

着物のイベントを立ち上げたんです。着物で町に出かけようというイベントです。例えば、別所温泉の旅館とか上田のまちで講師先生のお話を聞いて、その後、お茶を飲んでご歓談するというのを年2回開催しています。最初は30人、40人ぐらいだったんですけども、年を重ねるごとにだんだんと着物好きな方が参加して下さるようになって。こちらがその写真なんですけれども、これは今年の春、「着物でそぞろ歩き」というイベントを上田城でやりました。桜の季節に着物で90名の皆さんとそぞろ歩きしたということで、年々着物を着て参加して下さる方が増えているということは感じております。

着物のつながりが増えていく中で着物好きな方と交流を持てるようになって、もっと大きなイベントをやりたいねということで、3年ほど前から「着物マルシェ」というイベントを開催するようになりました。これは、着物のフリーマーケットとかワンポイント着物レンタル着付けサービスとか、着物を着たいんだけど一歩踏み出せないような方、着物初心者みたいな方でも気軽に着物に触れていただくという考えのもと、年1回秋に開催しています。

さらに、先ほどのシビックプライドセンター長が読書会をやっているんですけども、彼とちょっと飲んだときに、読書会と着物をコラボしたらおもしろいということで、「着物で読書会」というのを去年の11月に市内の古本屋さんで開催させていただきました。読書に興味はあるけれども着物には興味がないとか、着物もちょっと見てみようかなとか、両方の方をターゲットにして開催してみたんですけども、すごい盛況で、本を読む方もちょっと着物に触れて楽しかったですし、着物を着る方も本を読むことで本の魅力も再発見することができ、大成功でした。

いろいろと着物のつながりが増えてきて、着物の可能性をどんどん大きくしていきたいと思っていますので、今年は着物城下町上田構想ということでもっと着物で上田のまちを盛り上げたい、着物で上田のまちをいっぱいにしたい、そういう取り組みをしたいと思っています。今日はぜひ、着物と絡めて何かイベントについて皆さんのご意見を聞かせていただけたらなと思ってまいりましたので、よろしくをお願いします。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。では2番目はお二人ですね。「ウエーダイナマイト」

【参加者D及びE】

こんばんは。私は、古本とカフェのお店をしています。私は、市内で花屋をやっています。よろしくをお願いします。本屋さんで恋が生まれるのではないかということからインスピレーションを受けて、「本屋で婚活」、略して本活を始めました。テーマは、本を介した内面からの出会いです。周りには出会いがないという独身男女が多く、でも合コンやお見合いパーティは緊張して何を話していいのかわからずという内気な男女のために、本をツールとした婚活イベントを企画しています。回数を重ねる中で、試行錯誤して楽しんでもらえるイベントにしていきたいのですが、毎回さまざまな課題が出てきます。その中で、私たちの永遠のテーマとも言えるべきことがあります。それは、本を介した内面からの出会いにもかかわらず、

美人と思われる方が票をかつさらっていくという現実です。すみません、決して美人と思われる方が悪いというのではなく、その方に票を入れる多数の男性が悪いわけでもないんですけれども、10人来たら10個の個性があって、それぞれ素敵な方ばかり参加されてくださっています。それぞれの方々のよさを十分に引き出せるようなイベントにしていきたいのが私たちの目標です。本を使ってこんなことをしたらもっと楽しめるんじゃないかとか、どのようにしていったらいいのかとか、皆様と一緒に妄想していきたいので、ぜひよろしく願います。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。この本活も既に4回やっていますよね。5回目に向けていろいろな妄想をしてもらえればと思います。

では続いては、3番目、願います。

【参加者 F】

菅平高原にありますNPO法人の代表です。よろしく願います。「ウエーダイナマイト」

外遊びや自然体験の勧めということでお話しします。この看板、変だと思いませんか。楽しく遊ぶためにマフラーとか引っかけやすいものはとりましょうと。こんな看板が公園に設置されているのが現状です。川は危険ですので近寄らないでくださいとか。昔は、川は子供たちにとってはとっておきの遊び場だったと思いますけれども、今は、危険だから近づかないでくださいという看板がたくさんあります。いろいろな公共の公園にも、こんな意味がわからない看板が多数あります。これって、何かあったときの責任逃れで看板を置いているのかもしれないし、公園を利用している子供がけがをしたときに、こんな看板がなかったからけがをしたんでしょというために置いているのか。看板がある公園を管理している人が、こういうのがあったのに、けがをしたから悪いんでしょという、何かお互いの責任逃れのために置いているような気がします。私はこんな変な看板をゼロのまちにしたいと思っています。アウトドア県の長野県ですので、まず上田から始めて全県に進んだら、きっと外から来た人にも、まちにこんな看板がないところはみんなが自然を楽しんでいるんだなと通じるんじゃないかなと思います。私は信じて、自然の中で思いっきり遊ぶというのは、自分の責任で行動できる人が育つ、自分で危険を察知して未然に防ぐ能力が備わると思い、日々活動しています。森の中を歩いているだけでも風の音を聞いたり、突然虫が飛んできたりというのは自然の中だからこそ、ここに虫がいるかな、ここに何がいるかなという感覚が鍛えられると思います。自然の中に入ると、一人ではできないことってたくさんあるんですけれども、そこに仲間と行くことによって仲間の大切さを感じることができます。今の子供たちって五感がちょっと鈍っている気がします。例えば、食べ物も賞味期限の表示を見るからこれは食べられないとかではなくて、においをかいだり自分が口に入れることによって、これ腐っているなということを、ぜひ感じてほしいと思います。私は教育に関しては全く専門家ではありませんけれども、自分の経験とか体験を通じてお話ししますので、間違っていることもたくさん

あるかもしれません。自然の中というのは小さい挑戦がたくさんできます。大きな背伸びより小さな背伸びの積み重ね。小さい挑戦を繰り返して大きな挑戦につながる。小さい挑戦をしていますので、大きな挑戦をしてもくじけずにまたやってみようという強い心が育つと思っています。最初、お友だちがちょっと手を貸してくれたりとか、少しずつチャレンジすることによって、最後は大きな結果につながります。そのためにも、自然体験活動は本当に人と地域が重要だと思っています。すばらしい自然、いろいろな世代の人との交流。直接のコミュニケーションをとることによって地域を愛して、自分で行動できる子供になると思っています。本当に皆さんに考えていただきたいのは、そんなふうに地域で子供を育てることはどうしたらできるんだろうということです。例えば、見守り隊養成講座。責任ある他人の存在、親以外の他人って本当に大事だと思います。親だとどうしても自分の子供が大事なので、ストップをかけちゃうことがありますので、責任ある他人の存在と、他人に任せる親の決心が必要だと思います。わくわくどきどきを共有して、大きなけがをさせないための見守りのスキル、お互いが信頼できる関係性が大事です。とにかく外に出てみる、そんな機会が少しでもつくれるといいなと思っています。今日、皆さんとどうしたら地域で子供が育てられるかということを考えています。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。

【参加者G】

工場の代表をやっています。プレゼンの前にひとつ聞きたかったんですが、皆さんの中で製造業に勤めている、もしくは、比較的近い人が製造業に勤めているという方、挙手で教えてください。半分ぐらいいらっしゃいますね。そんな町工場からの現実をお届けしたいと思います。皆さんちょっと元気よくお願いします。「ウエーダイナマイト」

最近、下町ロケットなど流行ってしまっていて、工場というところに注目が集まっているんです。下町ロケットの佃製作所は、私たちからすると超大手です。実際の町工場というのは10人でも多いと言われてしまうぐらいの会社が多いんです。うちも同程度の規模です。3年ぐらい前から、子供に面白いものを遊んでもらおうと思って、商売にはならないんですけども、おもちゃをつくって出店しています。見ているとわかるんですけども、子供さん、離さないんですね、全然。目をキラキラさせながらやっています。成功すると何かもらえるのって子供が聞くんですけども、私たちはこう答えます。「寄ってたかって褒めてもらえよ」と。意外にうれしがります、みんな。その辺を見たときに「あれっ」て思ったのが、お客さんもそうだけど、ひょっとしたら、寄ってたかって褒めてもらえるのは働いている社員に必要なんじゃないのかと。いろいろな工程で地道なことを毎日毎日やっているわけなんです。毎日やるこの工程は、小さい会社では仕事内容がいろいろと変わっていくので同じことはいませんが、直接、お客さんとか目の前の人から、これやってもらってありがとうというふうに評価をされたりとか、褒められたりということがなかなかない商売だったりするわけです。なので、寄ってたかって褒められると、うれしいんですね。今日も一緒にやってくれ

ている社員も来ていますけれども、実はそこにある大きいキッチン、うちで依頼を受けて一緒に手がけさせていただきました。ああいうのもやっぱりすごいねって言ってもらえるとすごくうれしいわけです。ではどうやってやったらいいんだろうか。私はオープンファクトリーがやりたいです。オープンファクトリーとは「工場見学会」ということになります。小さい企業はそんなに売り物が無い。うちも、どこにも負けないこれだけができる、というものは無いです。それでも必要としてくださる方がいらっしゃるんです。工場で働いてる姿を見せよう。それを、例えば市のベースでやるとかちょっと広域のベースでやるとか。うちも工場見学にいっぱい来ます。未熟だけれども、工場で働いている人を見てもらうと、みんな口をそろえて「かっこいいね」と言ってくれます。働いていると「かっこいいわ」「すごいね」と。やっぱりすごくうれしいことで、ちょっと弱めの会社も多いんですけども、みんなオープンにすることによって、お客さんになり得る人も気軽にこういうところに立ち寄れます。さっき婚活の話もありましたが、もっと踏み込んでいけば、例えば婚活の女性が来た日には、現場で働いている人は腕章を巻いておくとか。働いている姿って一番かっこいいので、女性も見ると好きになるわけですね、「わあ、かっこいいよ」と。そのメンバーを集めていわゆる婚活をする。今日学生さんも来ています。大きい会社はわかると思いますが、小さい会社ってイメージがわからないんですよ。そこに行ってみれば、この会社こんなふうなんだと雰囲気というのが肌でつかめるんです。そうしたら、名前じゃなくて仕事で選べるような、そんな採用にもつながっていくんじゃないかなと思っています。必要なのは、企業が未熟さをちゃんと出せる勇氣だけです。今日は、それについてどんなことをやりたいかとか、こんなことをやっていったらいいんじゃないかとか、皆さんから募集できればと思います。以上です。

【吉澤茉帆氏】

では5番目ですね。

【参加者H】

私は、自然エネルギーの仕事をNPOでやっています。では、「ウエーダイナマイト」

今まで、太陽光パネルをみんなのお金で増やしてしまおうというのをやってきました。ここに書いてありますが、150人のパネルオーナーからお金を集めて、そのお金で1,300枚の太陽光パネルをこの周辺につけてきました。一番新しい発電所は信州大学の繊維学部で、50キロワットほどのパネルをつけています。今日は私の妄想におつき合ください。

今日、タウンミーティングがあるということで、何か私も話したいと思って妄想してまいりました。私はこの太陽光パネルの仕組みで節電所を始めたいと思っています。節電所って聞いたことがありますか。ないですよ。例えば、300ワットの冷蔵庫をお持ちだとします。でも、今の冷蔵庫はすごく省エネが進んでいるので、150ワットの冷蔵庫に買い換えたんです。消費電力が半分落ちるんです。そういうときに、150ワットの節電所を建設したという言い方をします。だから、単なる省エネなんです。でも、省エネと呼ばずに節電所と呼びます。それは、減らすとか我慢するとか努力するとか、節電や省エネに対するそういうイメージを

変えたいんです。節電を実行する施設や場所を節電所、節電量を発電量と呼んで、発電所の発電量と同じ価値を与える、積極的なイメージをつけるという新しい発想です。これは長野県環境エネルギー戦略にも再エネを増やすという目標がありますね。長野県は2030年までに再エネルギーで自給率100%を目指しています。それは再エネを増やす発電所だけではなく、消費量も減らそうとしているんです。では、増やすのが発電所なら、消費量を減らすのを節電所と呼んでもいいじゃないかということで、節電所をどんどん増やしたいと思っているんです。どんな発電所よりもクリーンなのが節電所。初期投資ゼロ円でLED交換を希望するお店とか事業所とか商店街など、この地域の皆さんでこの希望に手を挙げていただき、その人を節電所の所長と呼びます。そのお店だったら私応援したい、そのLEDの照明の費用を出しますという皆さんのことを節電所サポーターと呼びます。節電所サポーターの皆さんのお金でこのお店や事業所の、めちゃ電気食ってる電球をLEDに変えていきます。それによって電気代が削減できるんです。その削減分を契約期間の3年から5年、節電所長に月々払ってもらって、サポーターの皆さんに毎月お渡しする。3年から5年の間のサポーターが受けとる金額は、出したお金よりちょっと増えるという魅力をつくる制度にして、この事業を進めたいと思っています。節電所長のメリットとしては、もともと電気代がかかっていたんです。でも、削減した契約期間の3年から5年は、削減料は私のNPOに払ってもらいます。私たちはサポーターの皆さんにお支払いするんですが、でも、払う金額は変わらずして電気代が下がり、LEDに替えることができる。契約終了後は、この削減金額が所長の経済的メリットです。これから以降、ずっと電気代は下がったままです。

こんなふうにやっていきたいと思っているんですが、エネルギーシフト、自然エネルギーを増やしていくというのは両輪があります。発電所とともに節電所も必要なんです。節電所のいいところは、同じ容量で太陽光発電と比べたら何と設置費用が半分ぐらいです。そして節電量は3倍以上、すごく効果が高いんです。というわけで、市民出資、皆さんのお金を集めてもやりやすいプロジェクトなんです。スタッフにはこれから相談なんですけれども、節電所プロジェクトを始めたいと私一人で妄想しています。皆さん第一印象はいかがでしょう。この事業、何とか行けそうでしょうか。節電所長とか節電所サポーターになりたいと思われたでしょうか。この節電所の魅力をどう広報宣伝すればいいか、皆さんのご意見を今日はお伺いしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。今の内容、ここで初公開なんですよね。なので、ぜひいろいろなご意見を皆さんからお話いただければというふうに思います。

では続いて、最後のプレゼンになります。

【参加者B】

最後ですので、本当に元気よくやりましょう。「ウエーダイナマイト」

最初に簡単に自己紹介させていただきます。仕事では、家業で創業約300年の薬局がありまして、そこの経営陣の一人として、今、コンビニ店長をやっています。上田が大好きで、

熱い思いを持ったコンビニ店長ということで覚えておいてください。

シビックジャーナリズム・バイ・シビックプライドセンター上田。そもそも、シビックプライドセンターとは何って思うと思うんですが、先ほど冒頭で吉澤さんがお話しされたとおり、地域に対する愛着や誇りのことです。さらにそこに一言加えると、その町、自分の住んでいる町をよりいい場所にするために自分自身がかかわるという当事者意識だったり行動、自分事として考える、そういったものを伴うものです。例えば、今日の登壇者の皆さんはまさにシビックプライドをお持ちの方だと思うんですが、そうした仕事や趣味を通じて、この町をもっとこうしていきたい、こんなふうになったらいいなという思いがあって、それを皆さんに発信している。ですので、今日この場というのがまさに、そのシビックプライドがすごい集まっている場だと感じています。そのシビックプライドセンター上田ですが、昨年いろいろな方と縁があって、まさにメンバー一人一人が、こんな町になったらいいなという思いを持って実際に活動している、そういった人たちが集まったコミュニティです。コミュニティ自体での活動は、今まで蚕都として有名なこの上田のまちは、実は蚕糸業と一緒にシネマの町として発展してきたんです。その背景を知るためのまち歩きをしたりとか、上田映劇という昔からある素晴らしい劇場があるんですが、そちらをもう一回元気にするためにどういったことができるのかということをお話し合ったりしてます。ただ今年は、今からお話するシビックジャーナリズムに焦点を絞ってやりたいという妄想が膨らんでおります。そのことを今日、お話しにきました。市民のジャーナリズム、報道活動という内容です。もうちょっとわかりやすく言うと、地域で起きている問題を市民の視点から掘り起こす、そんなジャーナリズムを考えています。こうやって聞くと、問題を市民の視点から掘り起こすって難しそうだなと感じる方がいらっしゃるかもしれませんが、皆さんフィントゥン・ポストってご存知ですか。あれはまさにこういったタイプのジャーナリズムメディアだと思っておりまして、あれの地域版、上田版のようなものができればと思っています。さらにいうと、問題点だけではなくて、例えば今日登壇していただいたようないろいろな分野で頑張っている個人にもスポットを当てて、そういった人がなぜそういう活動をしているか、その先にどんな世界があるのかなどを発信したり、その情報に触れた一般の方がそれだったら俺も何かできるかもしれないなとかと思って行動に移してくれるような、そんなジャーナリズムメディアをやりたいと思っています。その地域の課題の解決策をみんなで考えたりして、とにかく一人一人が自分の頭で考えて判断して行動できるような自立した市民、そういったものが、さっきの話に通じるような気がしているんです。そういった市民性みたいなものが育まれたら最高だなと思っています。

では今日、皆さんと何を話したいのかということなんですけれども、今までの話は完全にまだ私の個人的な妄想です。だから、全然狭い世界での話なので、そもそも市民目線で何か楽しいことでも問題点でも発信していくときに、何を伝えるべきなのか、どうやって伝えるべきかという基本的なところから、皆さんとお話したいと思います。逆にいうと、皆さんが何を知りたいか、どうやって知りたいか、そういったことになります。例えば、普段どういったところから情報をとっていますか、何でその情報をとっていますかですとか、どんな情報だったらあなたにとって信頼性が高いですかとか、そういった基本的なところからいろい

ろ教えていただいて、シビックジャーナリズムをやっていく上でのヒントにさせていただけたらと思っています。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。今日はこの6名の方々、6つのテーマで妄想をしていきます。ここからはもう皆さん同士で話していただくので、気になったテーマに移っていただければと思います。椅子を持って移動されたら、あちらに飲み物を用意しています。じまんやきとお菓子もあります。じまん焼きは上田の大変有名なスイーツでございますので、お腹を満たしながら妄想をしていただければと思います。では、移動を開始してください。

(移動中)

【吉澤茉帆氏】

皆さん、大体テーブルに分かれてもらいましたか。傍聴という名の人がいるらしいんですけども、妄想に傍聴はありませんので、ぜひ参加していただいて、好きなように妄想をしていただければと思います。

では、今から15分ずつ計っていきますので、移動したい方はそのタイミングで動いてください。では、妄想スタート。

(第1ターン開始)

(第1ターン終了)

【吉澤茉帆氏】

自己紹介で長引いているところもあるかもしれないんですが、一旦、妄想をしたなと思う人は移動していただいていいです。まだちょっと足りないので残りますという方は残っていただいて、第2ターンに入ります。では、第2ターン、スタートします。

(第2ターン開始)

(第2ターン終了)

【吉澤茉帆氏】

第2ターンが終了になります。楽しいんですけど、悪いところは一齐にピッと終われないというところがありまして、大変恐縮なんですけど、一旦、立っていただいてシャッフルタイムを設けたいと思います。移動していただいてもいいですし、残ってもかまいません。最後のターンになります。

(第3ターン開始)

(第3ターン終了)

【吉澤茉帆氏】

話が尽きないとは思いますが、妄想を終了にしたいと思います。全体でそれぞれどんな話が出たのか聞いてみたいので、各テーブルのMVM、モスト・バリアブル・妄想を一つずつ教えていただきたいと思います。どの妄想がよかったですか。婚活チームからどうぞ。

【婚活チーム】

婚活の最後で本の貸し借りをするんですけども、本を返す日のイベントもつくりたいです。あと、婚活に関する県の認証をもらいたいです。

【吉澤茉帆氏】

県の認証。婚活やってますみたいな。県認定の婚活イベントにしたいという妄想が出たということですね。はい、ありがとうございます。拍手。

では、続いて町工場チーム。

【町工場チーム】

最後に出た話なんですけども、町工場を工場見学すると男性が多いので、まずはちょっと見てもらう。それを見た夜に、その人たちが参加した婚活イベントをやる。来てくれた女性には、一緒に共同作業をしていただくのがいいんじゃないかという話も出まして、溶接とかをやるときにわからないので、ゴーストの1シーンですが、後ろから囲っていただいてこうやるとか。それは冗談なんですけども、そんな形の共同作業を一緒にやって仲を深めていただいて、かっこよさを見ていただいて婚活をするという形で、製造業の嫁不足対策ができるんじゃないかと思っております。以上です。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございました。拍手。同じようなテーマになって行きついたというところで、ぜひ、この後、綿密な打ち合わせをしていただいております。続いて。

【外遊び・自然体験チーム】

このチームはやっぱり自然っていいよね、外で遊ぶことって大事だよという大前提のもと、最後に出たんですけど、「食べられるまち 上田」。自然遊びって、山とか川とか自然豊かなところじゃないとできないという印象があるんですけども、本当に近くの町でも十分できるし、町の中をお散歩気分歩きながら、食べられる木の実とかをみんなで採集して。まず、身近なところの自然を感じて楽しむというところから少しずつ広げていくということでした。

【吉澤茉帆氏】

なるほど、ありがとうございます。ここは女性の数が一番多いですよ。大分妄想が盛り

上がった様子がかがえます。

では、着物チームの一番よかった妄想を教えてください。

【着物チーム】

まず、問題点として着物に関する情報をもっと発信していこうということ。知らないことが多過ぎて、なかなか着物に一步を踏み出せないというのが問題点として浮き彫りになったと思います。着物を着る機会を増やすには、着物を着ることで何か特典をつけたらもっと着物を着たくなるんじゃないかという結論に至りまして、それで早速、今年実行しようと考えているのが、県庁に着物で行ったら、着物を着た知事と一緒にツーショットで写真が撮れますと。これを今年、何か実践できる方向に進んでいますので、ぜひよろしくお願ひします。以上です。

【吉澤茉帆氏】

早速、妄想が現実になるということなんですね。

では、節電所チーム、よかった妄想を教えてください。

【節電所チーム】

節電所はサポーターがいないと成り立たないんです。そこで、まず最初に、飲み屋に来て酔っ払っているときにサポーターになってと呼びかけて始めればいいんじゃないかという話が出ました。となると、お金で返さなくてもドリンク券でもいいんじゃないかなという話になりました。節電の仕組みを通してそのお店と一緒に宣伝をしていく。例えば、節電をしたお店とか会社を一覧表にして、あちこちに宣伝をしていく。ホームページでも紹介するなどして、そのサポーターになってくれた人たちにはカードなどを渡して、その加盟店に行けば特典がつく。そういう形で広めていく。つまり、省エネとかエネルギーも大事なんですけれども、やっぱりちょっと何かうれしいな、ワクワク感のある提案をしていけば、サポーターは集まるんじゃないかというアイデアをいただきました。ありがとうございます。

【吉澤茉帆氏】

ここはなかなかなじみがないテーマだったのでちょっと人数は少なかったけど、その分、リーダーが面談のように質問攻めにあってましたね。

では最後に、シビックジャーナリズムお願いします。

【シビックジャーナリズムチーム】

このチームはシビックプライドだったんですけども、ターゲットをしっかりとすべきとか、議論の内容をどうしたらいいとかの課題が幾つか挙げられてました。知事からは、ジャーナリズムという形がシビックプライドとなったときにどう変わっていくのかということをもっと明確にしたほうがいいんじゃないか、というご意見がありました。ありがとうございます。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。今日は6つのテーマで、いつもだともう少し全体共有を挟んだりしながらやるんです。県の方に長丁場でいただいたんですけども、どうしても2時間という、妄想ミーティング的には超短いバージョンでやったので、なかなか話し切れないこともあったかと思いますが、それぞれのテーブルで話が盛り上がっていたようだったのでよかったですなと思いました。毎回やって思うんですけど、実際にもうやろうとしている、やっているという方々がテマリーダーになってくださったので、メモを見てもテマリーダーの方が一番一生懸命書いてくださるんです。何かやろうと思って仲間を見つけようとするし、アイデアを探そうとしているし、意欲的を超えて貪欲みたいな感じなのが妄想ミーティングのすごいところだなと思います。

今回もまた具体的に実現が近そうなアイデアも出たので、ぜひ5回目も開催して、あれがどうなったとか、知事のところに行ってきました、みたいなお話も伺えるといいなと思っています。

最後に、シビックプライドセンター上田のセンター長からお言葉を。

【参加者B】

いつもこうご紹介いただいているんですけど、シビックプライドセンター上田って完全な任意団体ですし、予算も何もありませんし、部下がいるわけでもなくて、それぞれ本当に勝手にそれぞれ思いを持ってやっている人たちが何となくつながって。でも、それがすごい心地いいんです。それぞれの人たちが活動しているときに何となくそれを手伝ったり、いろいろ何か協力してもらったりみたいな、そんな関係でやっています。

今日のこの場はやっぱり楽しかったですね。本当に妄想を膨らませて、いろいろなアイデアを出して、人がやりたいことを何か応援する気持ち。僕らテマリーダーは、一つ一つのアイデアがなるほどなと胸に刺さるものが非常に多かったので、ぜひ実行に向けて頑張っていきたいと思います。今日、こういう場をつくっていただいた吉澤さん、そして何より阿部知事ほか県の皆様、本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございました。では、最後に阿部知事から総括いただいて、そして最後はダイナマイトをやりますので、心の準備をお願いします。

3 知事総括

【長野県知事 阿部守一】

皆さん、今日は大変お疲れ様でした。楽しかったですか。県主催でやっているの、最初はちょっと硬かったし、いつもと少し違う雰囲気だと言われてしまったので、私も今回はこ

んな格好ではいけないなど反省していますけれども、6チームに分かれて話し合っ、それぞれ有意義な話し合いができましたか。まだ足りないとか、ちょっと中途半端だったという感じですか。よかったと思っている人はどれぐらいですか。(挙手) そう、ならよかった。時間がちょっと足りない分は、これ県主催だから県が夜通し徹夜でやってくれとは言えないので、それはみんな、また自主的にやってくださいね。

十分回れなかったところもあって、全然聞いていないところもあって申しわけないんですけども、私が妄想していることではなくて、知事として考えていることと皆さんがやろうとしていることとの結びつきとか、関連性だけちょっとお話を、皆さんのこれからの活動に役立ててもらいたいと思います。

プレゼン順でいうと、まず着物チーム。妄想を実現するようにしましょうね。私と写真が撮れるというのは、県庁でやるのがいいのか上田市でやるのがいいのか、ちょっと考えますけど、一緒に企画してください。いいですか。そういう具体的なことが実現しないと、何か集まって知事も来たけど、何も実現しないんじゃないかと皆さんに怒られてしまうので、まずちょっとすぐ考えましょう、一緒に。このチームでは言ったんですけども、今、県庁で地方創生、総合戦略を考えている中で、キーワード一つに「地消地産」というのがあります。地産地消はよく言っていますよね。自分の地域でつくっているものは自分の地域で消費しましょうと。それも大事ですが、もうちょっと考え方を進めて、自分の地域で消費しているものは自分たちでできるだけつくると私は思っています。例えば、エネルギーもそうですね。日本のエネルギーは大体石油、化石燃料に依存していますから、ほとんど海外から輸入しているんですけども、長野県全体を見渡せば、森はいっぱい。私、家で薪ストーブやっていますけれども、薪なんていっぱいありますよね。それから小水力発電も含めた水力発電は水がいっぱいあって、急峻な地形ですから長野県は発電しやすい地形です。それから上田地域もそうですが、長野県は日照時間が比較的長いので太陽光発電も、今、どんどん増えています。そういう意味でエネルギーの地産地産。それから、長野県は農業が盛んで農家の数が日本で一番多いですから、食べ物の地産地産。木材、住宅もなるべく県産の木材でつくろうと思っています。実は、県が考えていて一個足りていないのが、衣食住が暮らしの基本なのに、食はある、住も県産材で木材を使う。でも、衣料の衣が足りない、ぜひ着物チームと一緒に考えたいと思っています。それからもう一つ、伝統文化、伝統工芸品、そうしたものをもっと大事にしなければいけないので、上田紬の振興も考えなければいけない。ぜひ県の施策と一緒に連携して取り組んでもらいたいと思います。よろしくお願ひします。

それから本で婚活チーム。私、ほとんど入らなかった、実際、婚活をどうやっているかわかっていないのですけれども。今、長野県は合計特殊出生率が直近の数字で1.54なんです、10年後には1.84に上げようと思っています。上げようというのは、無理やり結婚をしろとか子供を産んでくださいという話ではなくて、アンケートをとって、結婚を希望する人が結婚でき、子供を産みたい人が子供を産み、ほしい数だけ持てれば1.84は実現できるはずなんです。けれども、出会いの場がなかったり雇用が安定しないから、本当に結婚してしまっているのかなと、いろいろな課題で悩んでいる人たちがいっぱいいる中で、結婚したくなる、子供を産みたくなる、そういう長野県にしていきたいと思っています。私はどちらかという

と体育会系ののりじゃなくて、文化系ののりでずっとやってきたタイプなので、冒頭のお話になったように、あまり積極性がないけど本を読むのは大好きというような人たちの出会いの場をもっと提供してもらえないかなと思います。婚活の話は、あまり狭いエリアだけじゃなくてもっと広いエリアで考えたほうがいいんじゃないかと思います。そのほうがいろいろな人たちと交流できるので。全然話に加わっていなかったのでもんな話をしていたかわからないんですけど、ぜひそういう視点、例えばほかの地域の婚活をやっていて、しかも本と関係してやっているような人たちと連携してもらおうといいんじゃないかと思います。

それから今日のチーム、一つのテーマごとに分かれてやったんですけども、本当は多分、もっと交流したほうがいろいろなアイデアが出てくるんじゃないかと思いました。町工場チームが最後、婚活の話まで行っちゃってましたけど、全然違う分野の人と話をすると、実は意外な知恵が出てくる部分もあるのではないかと考えています。

外遊びチームの話も、私、あまり聞けなかったんですけど、長野県は昨年からは信州型自然保育認定制度をつくりました。これは全国で初ですけれども、愛称信州やまほいくということで広げていこうと思っています。今、いわゆる森のようちえんというのを、保育園や幼稚園の世界でやっていますけれども、私は、長野県をもっとアウトドア県にしていきたいなと思っていますので、大人も子供もアウトドアの知識もあるし体験もしやすい県にしていきたいと思っています。そういう観点で協力してもらえるとありがたい。ちなみに、フェイスブックをやっている人たちはこの中にも大勢いると思いますけれども、私のフェイスブックを見てもらっていますか。フェイスブックはやっているけど、知事のなんか一度ものぞいたことがないという人、いっぱいいますか。今日も東京に行っていたので、こっちに来るときにもフェイスブックで、うちの県でやっている信州型自然保育のネタをフェイスブックにアップしました。長野県は信州型自然保育なんて言っているけど、一体何をやっているのか知りたい人は、ぜひ私のフェイスブックを見てください。県のホームページを見てもらってもいいんですけど、この際、私のフェイスブックも見てもらえるとうれしいなと思っています。

それから町工場チーム。長野県の産業構造を見ると、ものづくり産業のウエイトが極めて高いんです。全国的に第三次産業、サービス産業のウエイトが高くなっているんですけども、全国の一次、二次、三次の比率に比べると、長野県は第二次産業、ものをつくる産業のウエイトが高いです。そういう意味では、長野県にとっては、ものづくり産業が一番の稼ぎ頭でありますし、大変重要な雇用の場でもあります。ものづくり産業を褒め称えるという話がありましたけれども、何か地味なことをやっているねみみたいな話ではなくて、すごい技術力を持った企業がいっぱいあります。そういうものを我々はもっと県としても発信をしていかなければいけないなと思っています。例えば、今、南信州で航空宇宙産業クラスター形成特区というのをやっているのを知っていますか。おとし、私はアメリカ、シアトルに行ってきました。何にしに行ったかという、シアトルにはボーイング社の工場があります。長野県の企業がボーイング社と取引しているんです。要は、ボーイング社と直接取り引きをして直接納入している企業というのは極めて技術力が高い。下町ロケット、まさにああいう企業が長野県には幾つもあります。航空宇宙産業分野だけではなくて、この道に限れば日本全国のシェアがナンバーワンという企業がいっぱいあるんだけど、若い人たちには

全く知られていない。知っていますか。知らないですよ。そういうことをもっと我々県行政もアピールしていこうと思っていますし、産業界の皆さんも一緒にやっていかなければいけないと思っています。今日の新聞、剛力彩芽さんを主役に使って長野県がドラマをつくるという話なんですけど、知っていますか。みんな新聞読んでいますか。長野県で働こうというPRをこれからもっとしっかりやっていこうと思っています。私は、これからの社会は価値観がどんどん変化して行って、これまでいいとされていたものが、実はあまりよくなってきて、今まであまり評価されていなかったものが評価され始めている、そういうきざしが出てきていると思っています。長野県は、田舎暮らしの本では、10年連続で移住したい県ナンバーワンになりました。昔から東京に住むのが何となくかっこよくて、そういうほうがいいんじゃないかと、大企業に入って一生安泰の暮らしのほうがいいんじゃないかという時代が結構長く続いた気がしますが、もう世の中、そんな時代では全くないと私は思っています。東京、あんなごみごみしたところで、人の体を平気で押して満員電車に乗る暮らしが幸せな毎日だと、私はあまり思えないんですよ。あるいは大企業に入って、確かに安定感はあるかもしれないけど、でも10年後20年後になれば、確実に産業構造は変わっていく中で、一つの歯車としてしかできないような仕事よりは、むしろ自分で起業したい、あるいは、小さな企業だけでも自分たちが頑張ればいろいろなことができるという社会のほうが、多分、求められているようになってきていると思います。そういう意味では、町工場プロジェクトは、私はぜひ、いろいろな意味で長野県としても一緒にやりたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

それから節電所チーム。長野県の環境エネルギー戦略の目標、最大電力需要のピークに対する長野県内の発電量を100%に持っていくというのは、昔の計画では確かに2030年だったんですけども、もう今は大体8割近くになっていますので、あと数年で理論上は100%になります。これは東京とか大阪に発電して持って行ってしまっているものも含めてなので、あくまでも理論値ですけども。さっき言ったように、太陽光、自然エネルギーがかなり普及していますので、ぜひこの流れは皆さんと一緒にもっと進めていきたいと思っています。ただ、太陽光は、どちらかといえば今、計画とか環境とか負の側面が大分顕在化してきたので、長野県としても環境アセスメントの対象にしたり、その規制もかなり入れていこうということで取り組んでいます。そういう中で、このテーブルの取組は、私はぜひ実現していただきたいと思っています。長野県が管理する道路の街灯は電気をいっぱい使っているんですけども、実は、来年度からあれをLEDに替えてしまおうと。長くても4年ぐらいで全部かえてしまおうと思っています。自然エネルギーの普及拡大と省エネルギーは、さっき言った自分たちの地域の自立性を高めるエネルギーの地産地消にも結びつきます。今年の状況は雪が少なくスキー場が困っているんですが、これは地球温暖化の影響もあるのかなとも思ったりします。地球の気候は確実に変化していると思います。気候変動の問題は、最近あまり言われなくなってしまいましたけれども、私は極めて重大な問題だと思っています。横浜で副市長をやったときに、アフリカ開発会議が横浜であって、ノーベル賞をとったワンダリ・マータイさん、アフリカに植樹している方たちが出た会議に出たんです。我々先進国に暮らしていると気がつかないんですけども、自然の影響を本当にもろに受ける地域の人たちは、

気候変動の影響で干ばつが起きたり食糧危機になったりというのが、もう現実の問題になっていますし、それにとどまらないで、そういうことを契機に民族間の紛争が起きてしまっています。もう一回、地球の気候変動の問題について我々もしっかり考えなくてはいけないと思いますし、別に地球の問題だから何かすごく大層なことをしなければいけないというんじゃなくて、ちょっとしたことで節電することが、めぐりめぐって地球環境をよくするということにつながるということは、ぜひ皆さんも頭の片隅に置いて、日ごろの暮らしでちょっとだけでいいから気をつけてもらえれば、大変節電できるんじゃないかと思います。それはひいては世界のためになると思っています。

それからシビックプライドセンターのシビックジャーナリズム。これは、私はぜひ何か具体的な形にしてもらいたいなと思っています。ただ、私も先ほど申し上げましたように、目的がはっきりしていないと、多分、共感も得られないし長続きしないので、メディアとかジャーナリズムをつくる時に、一体どういった問題意識でやるかというのは、ぜひしっかり考えていただければいいかなと。今日はいろいろなテーマが出ていましたけれども、やっぱりこういうテーマを世の中に広げて共感者を増やし、それで上田や長野県を変えていこうということは、人と人の情報の共有、つながりがないと絶対できないと思っています。既存のメディアではなかなかできづらくなっている時代だと思いますので、私の意見としては、ぜひそういうところに何かくさびを打ち込んで新しい活動をしてもらえるといいなと思っています。

長くなってごめんなさい。一応、一通りについてコメントしました。私は、知事の立場で見ているいつも感じることを最後に一つだけ申し上げます。さっきも言いましたが、いろいろな問題は全て重要ですけども、その問題だけ考えているとなかなかブレークスルーしづらくて、むしろ今日出た6つのテーマをもうごちゃ混ぜにしてしまって一緒に考えらどうかと。着物を着て婚活やろうとか、町工場を省電力しようとか、多分この6チームだけでも、パッと考えるだけでも結構いろいろなつながりはできるなと思っています。ぜひそういう視点を常に持って、これからも一緒になって上田を、長野県をよくするために協力してもらいたいと思います。ありがとうございました。

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございます。知事からそれぞれのテーマにコメントをいただいて、大変よかったです。当初30名ほどかなと思っていたんですけど、参加者の皆さん50人も集まっていたいただいて、大盛況で。金曜日、飲みに行きたい中、集まっていたいただいて本当にありがとうございます。一人一人から感想伺えればいいんですけどもなかなか難しいので、受付でお渡しした振り返りシートに、気づいたこと感じたことを書いていただけるとありがたいです。

締めは上田の決まりというのがあって、万歳三唱ではなくて、ダイナマイト三本でいきますので、ぜひ阿部知事のご発声で。皆さんご起立いただいて。

【長野県知事 阿部守一】

今日は皆さん、ありがとうございました。吉澤さんもずっとつき合っていたいただきましてあ

りがとうございました。ぜひ上田から信州をよくしようということで、皆さん、ぜひ立ち上がって行動してください。

それでは、ウエーダイナマイト三本締めで締めさせてもらいたいと思いますので、皆さんご唱和願います。それでは、「ウエーダイナマイト、ウエーダイナマイト、ウエーダイナマイト！」

【吉澤茉帆氏】

ありがとうございました。

4 閉 会

【広報県民課長 藤森茂晴】

吉澤さん、それから参加者の皆さん、本当にどうもありがとうございました。

それでは以上をもちまして、若者タウンミーティング、終了させていただきます。長時間にわたり、ありがとうございました。